

はじめに

高度経済成長期に整備された日本のインフラは、今や完成から50年以上が経過しており、これら耐用年数を超えた老朽化インフラのリニューアルは、我が国にとって喫緊の課題となっております。

CMR工法協会は、老朽化したマンホールの撤去工事において、コスト削減、工期短縮、交通渋滞削減を目指し、ケーシング型掘削機を使用した工法を普及・発展すべく設立いたしました。

当協会の理念として、

すべてにおいて独り占めしない

工事に携わった関係者全てが公平に利益を享受する

将来の若い世代に負の遺産を残さない

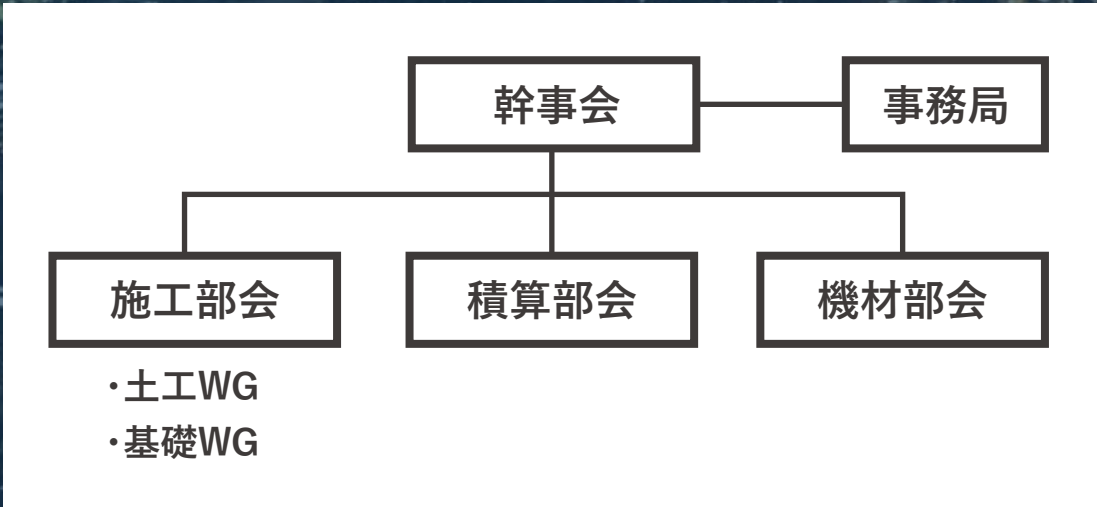
を掲げ、この理念に賛同頂ける皆様とともに謙虚に歩んでいく所存です。



CMR工法協会 会長 森元 金作

協会概要

- 1. 協 会 名 一般社団法人CMR工法協会
(ケーシング掘削式マンホール撤去工法)
- 2. 設立年月日 2025年6月2日
- 3. 会 長 森元金作(森元工業株式会社 代表取締役)
- 4. 代 表 理 事 稲積真哉(芝浦工業大学地盤工学研究室 教授)
- 5. 専 務 理 事 山川優樹 (東北大学数理システム設計学講座 教授)
- 6. 常 務 理 事 菅野友紀 (株式会社ベターマネジメント 代表取締役)
- 7. 組 織 図



8. 事 務 局 株式会社ベターマネジメント内

工法の特徴

- 1 掘削範囲を最小限に土量削減と山留省略を実現
ケーシング型掘削機を使用することで、掘削土量を削減し、山留架設を省略することができます。
- 2 掘削地山内の作業で高い安全性を確保
ケーシング内でマンホールを破砕撤去するので作業員の安全を確保できます。
- 3 工期短縮で交通規制も最小限に
マンホール撤去にかかる時間を大幅に短縮できるので、交通規制期間を短縮し、道路交通渋滞を削減できます。
- 4 低空頭対応機で上空制限にも柔軟に対応
上空制限がある箇所についても、低空頭タイプのケーシング掘削機を使用することで対応可能です。
- 5 トレーラー1台で搬送可能高い機動力とコスト削減
ケーシング掘削機はトレーラー1台で運搬できるため回送費を削減できます。
- 6 組立・解体不要で即時施工・毎日撤収に対応
ケーシング掘削機は組立・解体が不要ですので、機械の組立・解体にかかる時間と費用を削減し、工期も短縮できます。毎日撤収することも可能です。



使用機械

SPD12

0.25m級
トルク(kN・m):外側120、内側60
ケーシング径(mm):φ600~φ1000
掘削可能深度(~m):8.0

HPM100

0.7m級
トルク(kN・m):105
ケーシング径(mm):φ1000~φ1200
掘削可能深度(~m):13.0

SPD11

0.4m級
トルク(kN・m):外側120、内側60
ケーシング径(mm):φ600~φ1000
掘削可能深度(~m):12.0

SK350

1.2m級
トルク(kN・m):外側650、内側300 / 216
ケーシング径(mm):φ600~φ1500
掘削可能深度(~m):15.0

